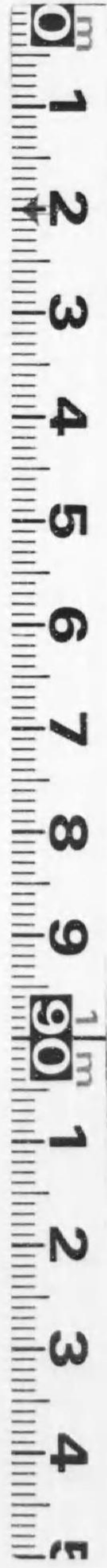


山田流箏曲集

貳編一

特113

8871



始



47113

887

名家作

山田流琴曲集 貳編一

御琴師 重元平八藏版

電話下谷四千二百〇一番

田植の幸

琴 平調子

前弾シテ 暎さとしの卵たまごの花はなや、咲さきもそめて。ツレ 山やまほ
 ととぎすの忍しのび音ねも。園ねわの衣ころものうらなつ
 かしく。短みぢかき夜半よはのとこよもの。比ひ化な橋はしの
 うつり香かに。きぬぐ 暮したふ後のちの朝あさ。人ひと目め
 をつむ妹いもが戸とも。シテまだ若竹わかたけの世よ心こころづ
 かぬ。乙女ひとめがとも、打うちつれて。ワケ小田をだに

おりたち足なみも。ツレ櫛ひの笠にひとへ
衣。くれなる匂ふ玉だすりも。合シテ掛けま
も。いともかしこき天皇の。ワキ御代明ら
けく治まれる。合シテ九年の五月陸奥へ。行
幸まします道すがら。ワケ親く見そな
はせ給ひしは。ワケ百姓をいつくしみ。ワキい
たはりまします御心にて。ツレいと有難き

ため〜にこそ。合ツレそも〜我大御國は。
もとより百千足國とて。よろづの物のたる
が中にも。すぐれて稲の生みたつより。みづ
穂の國ともたへたり。穂とは息の根といふ
事。息ある内が命にて。いのちを保つ根本
なり。かく大切の初稲を。シテ神に奉らせた
まふを新嘗會とぞ申なる。ツレされば人々

もつゝみみて。ゆだねをおろし苗代に。早
五十串を立て、七五三はへて。ツレ水口祭も
おごそかにせよ。シテ三千五百万のたみぐさ
ツカふるたふとき、瑞米を。あくまで食ひ腹
つみ。合うちつ御國の早苗草。年ある秋の
千五百秋榮え行くこそめでたけれ。ツレ榮
え行くこそめでたけれ。

明治十四年三月

三代目

山登松齡作

田の聲

琴半岩戸調子

前弾シテおほろ夜の。ツレ影は霞の薄もの。こ
ほれて白ふ梅が香の。日敷にうつる春くれ
て。合ツテ夏立つけふの薄衣。シテうす紫のあ
ふちかけ。ワケ涼も風に秋のたつ。合ツレ薄

霧きりなびく初尾花はつとばな。ワキほのかにうすく暮く
 れそめて。ミヤきこゝりす高き山風たかやまかせに。ワケ月つきすむ
 秋あきの琴ことのこゑ。ワケ夜寒よさむの雁かりも音ねをそへて。
 外そと面の木々の薄紅葉うすもみぢ。合あミヤいそぐ時雨しぐれの
 朝あさ戸と出しに。庭にはのうす雪ゆきめづらくな。ワケな
 げの情なまけの筆ふでのあと。ワキ墨すみうすからぬ玉たまづ
 さに。ツレ契ちぎりは何かなにかうすからむ。うすきへた

ての賤しづが家かに。合あツレ稲いねつく白うすのつちのうた。シテ
 柏子ひやうしも風かせに通かよひきて。ツレうたふこゑこゑおも
 しろや。

此句このく當とうは尾張おとの人ひとなりをうとみおこに
 登のぼりば志このらべをきかすも月縁つきえんのうすか
 らぬゆゑあるらんうゝ
 あり玉たまの年としのをたまき操くわうへへんせぬあさ

日の御旗ひのみはたたなひきて旭あすひあけ陰かげそふ長閑のどかさハ初はつ
からすさへうちとけてかほらうくとなくさ
るも今朝けさ来る春はるをつげわたるらん

三代目
山登作

あやめ草 琴雲井調子

玉たまくしげと道みちの榮さかにかけまくもかゝこ
き御代みよにすむ水のみづ惠めぐみに茂しげる菖蒲草あやめぐさ。合あシテ

いつの五月ごがつきにひきそめて。ワケ賤しづが袖そでさへにほふ
なる。合あッレ露つゆの朝日あさひの影かげ清きよく。さながらうかがし
の玉たまなれや。みどりの末葉すゑはうちなひき。ワケ
そよとかをりもなつかくながら。ワケ敷かきな
らぬ身みのやゝせなや。ワケめふらぶ人ひとのあ
またとは。ワケそれもワケ霰しづくのツレたねかいな。合あシテ
敷しきたへの枕まくらにかよふ月影つきかげに。ワケおなまじ匂におひの

小夜風も。ワケ 何かあやめの長き根は。ツレ 幾千
代かけて軒にふくらむ。

千代田作

さみだれ 琴平彌子

シテ 竹の夜の間の夢のみどにかきこに。シテ
ながくくしくもくりかへす。合ツレ 軒の糸みづ
いとどくく。ワケ まきこの板戸のあけくれに。ワケ

くめりがちなる寝屋のうち。ワケ うつらくと
うたゝ寝の。ワケ 枕に遠き時鳥。ワケ 雲間ほのか
に忍ぶ音も。合シテ ゆかかゝやまゝにならぬ身の
ワケ うきかすまさる夏草の。合ワケ 鐘をばよそ
に聞き捨て。ワケ まだたも残るかやり火の。
ツレ ゆるばかりの物思ひ。はるまき夜
半のさみだれ。

千代田作

千歳の春

琴 半雲井

前彈シテ
 新玉のツレ年の初子や鶯の聲とくしき
 けは咲きそむる。合ツレ梅の匂の吹く風に。たぐ
 へてぞやる朝夕の。シテころろ盡しやわがせ
 こが。ワケころも春雨ふるごとくに。ワケ野邊の若草
 色はえて。ワケつまこもれりとなくもこ。ず。ワケ
 空も長閑に雁金の。ツレ霞の内に薄墨の。文

字かとはがりかけるなる。四方のけしき
 か。い。け。に。家路忘る。このもとや。合ツレ幾代子
 の日の姫小松。シテひかる。袖の初若菜。ワケす
 ずたみす。しろ。見そめてそめて。ワケせりに
 せかる。我心。ワケ妻となづなの。さ。だ。ま
 るならば。合ワケ玉のはこべら二人が中は。シテこ
 きやうの。き。し。つ。神。か。け。て。合ツレ替りはせずと

諸共に。ちかひを互てし佛のぶ。合草のかず
かすつみ遊ぶ。合春のみどりのうらくくに。ゆ
かり句へるすみれ草。ちぐさの色と今ぞし
らるゝ。

千代田作

大正二年五月 日印刷
全 二年五月三十日發行

著作
所權
有作

東京市日本橋區本村木町二丁目廿三番地
著作及
發行兼
印刷者
重元勝善

256
366

蘇州府
蘇州府
蘇州府

蘇州府
蘇州府
蘇州府

蘇州府
蘇州府
蘇州府

蘇州府
蘇州府
蘇州府

全
大
日
日

終

